

2024 年 10 月 30 日
東京ガス株式会社

2024 年度（2025 年 3 月期）第 2 四半期決算説明会
Q & A

Q 1 : R O E 8 % へのコミットメントが強くなったと感じるが、達成に向けては、分母：自己資本の圧縮と、分子：利益の増加の双方において、依然高いハードルではないか。実現に向けた道筋を伺いたい。

A 1 : 中期経営計画における各指標のうち R O E 8 % を最も優先順位が高いものとして認識しており、中長期的にはさらにその水準を超えるレベルを目指していく。

R O E 8 % 達成に向けては、1, 0 0 0 億円程度の自己資本の圧縮と中期経営計画で掲げたセグメント利益 1, 5 0 0 億円を上回る 1, 8 0 0 億円程度の利益レベルが必要と認識している。

自己資本について、今回の自己株式取得により、まずは 4 0 0 億円の圧縮となるが、成長投資の状況や為替等の経済動向を踏まえ、今後も機動的に実施していく。なお、引き続き投資規律についても厳格化に努めていく。

中長期的な利益について、今年度の電力事業における制度影響等による一時的費用増、海外事業における北米ガス価格の低水準影響、都市ビジネスにおけるホテル休業影響といった、一過性の利益剥落からの回復を見込んでいることに加え、国内ガス事業等既存事業の徹底したコストダウンも全社大で取り組んでおり、継続的に前述の利益レベルを見込むことができると考えている。

Q 2 : 北米シェール事業について、どのように利益を拡大し、安定化させていくのか、考え方を伺いたい。

A 2 : オペレーションコストを下げコスト競争力をさらに磨いていくとともに、適切なタイミングにおけるヘッジにより利益の拡大・安定化を図る。加えて、ガス価格の下落局面においても利益を獲得できるよう、北米シェール事業単体ではなく、取得したトレーディング機能とのシナジーを追求するなど、面的に捉えて北米事業全体として稼いでいくことを考えている。

以上